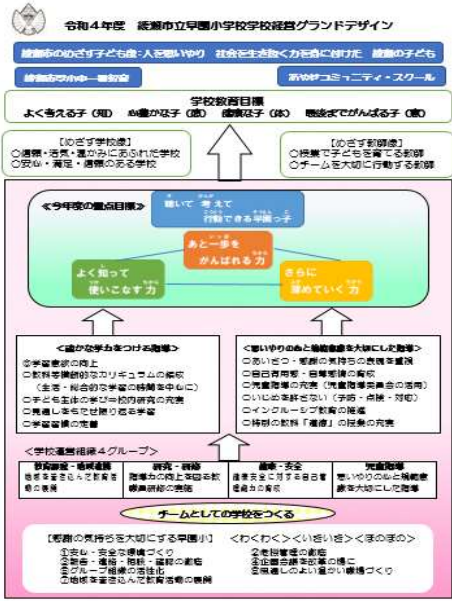


令和4年度 綾瀬市立早園小学校 学校関係者評価報告書

綾瀬市教育委員会の基本方針	(学校教育分野) 人を思いやり 社会を生き抜く力を身に付けた 綾瀬の子ども	
学校教育目標	・よく考える子 (知) ・心豊かな子 (徳) ・健康な子 (体) ・最後までがんばる子 (意)	
学校経営方針 (グランドデザイン)	 令和4年度 綾瀬市立早園小学校学校経営グランドデザイン 綾瀬市のめざす子ども像: 人を思いやり 社会を生き抜く力を身に付けた 綾瀬の子ども 綾瀬市のつなぐ一環: 学校・家庭・地域・社会の連携 学校経営目標: よく考える子 (知) 心豊かな子 (徳) 健康な子 (体) 最後までがんばる子 (意) 【めざす学校像】 ○道徳・学力・豊かな心にあふれた学校 ○安心・満足・信頼のあふれる学校 【めざす新環境】 ○保護で子どもを育てる新環境 ○ゲームを大切に行動する新環境 ＜今年度の重点目標＞ - 聴いて 考えて 行動できる早園っ子 - あと一歩も がんばれる力 - さらに 深めていく力 - よく知って 使いこなす力 ＜成長を学ぶための環境＞ ①学習意欲の向上 ②教科等横断的なカリキュラムの構築 ③生活・総合的な学習の時間を中心 ④子ども主体の学びや校内研究の充実 ⑤発達しあひだせ健やかなる学習 ⑥学習意欲の充実 ＜新しい学びの場と活動環境を大切にしたい環境＞ ①新しい学び・活動の場を確保 ②自己学習型・協働学習の構築 ③児童意欲の充実 (児童指導委員会の活用) ④いじめを許さない (学級・学級・学級) ⑤メンタルヘルズ対策の推進 ⑥特別の教科「道徳」の授業の充実 ＜学校運営組織 4 グループ＞ - 研究開発・指導実践: 授業をまねてみる授業 - 研究・評価: 授業の向上を目指す授業 - 指導・安全: 授業をまねてみる授業 - 児童指導: 授業をまねてみる授業 ゲームとしての学校をつくる 【新環境の活用を大切にしたい環境】 ①安心・安全な環境づくり ②生活・総合的な学習の時間を中心 ③子ども主体の学びや校内研究の充実 ④発達しあひだせ健やかなる学習 ⑤学習意欲の充実 ＜わくわく・くいきい・くまのまの＞ ①生活・総合的な学習の時間を中心 ②自己学習型・協働学習の構築 ③児童意欲の充実 (児童指導委員会の活用) ④いじめを許さない (学級・学級・学級) ⑤メンタルヘルズ対策の推進 ⑥特別の教科「道徳」の授業の充実	
今年度の重点目標	【重点目標】 聴いて考えて行動できる早園っ子 【育てたい資質・能力】 よく知って使いこなす力 さらに深めていく力 あと一歩がんばれる力	
取組分野	評価の観点	学校の自己評価と改善策
1 学習指導	学校は、「よく考える子」を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。	児童、保護者ともに肯定的な回答が多く見られるので、今後も授業づくりの研究を続けていきます。しかし、「あまり思わない」「そう思わない」と感じている保護者が26%いるので、保護者にも学校での取組が伝わる方法を検討します。
2 教育課程	児童は、学校行事や特別活動に積極的に参加している。	児童、保護者ともに肯定的な回答が多く見られます。運動会や遠足において、児童の発達段階に応じたためあてを明確に伝え、児童が主体的に取り組んでいくことができるように指導していきます。また、縦割り活動(キラキラタイム)では、児童同士のつながりが深まっている姿が見られるので、今後も計画・実施していきます。
3 児童・生徒指導	学校は、「心豊かな子」を育てる指導を積極的に行っている。	児童も保護者も「友達と仲良くしている」という肯定的な回答が多く見られます。全ての教育活動を通して思いやりの心と規範意識を大切にしたい指導を行い、自分と相手とどちらも大切にできる「心豊かな子」の育成に全教職員で努めていきます。また、否定的な回答をした児童への配慮や支援も全教職員で継続していきます。
4 児童・生徒指導	児童は友人や先生との学校生活に満足している。	9割を超える児童が学校が楽しいと回答し、学校生活に満足していると思われます。しかし、否定的な回答をした児童についてはスクールアンケート等を活用しながら児童理解に努めるとともに、より注意深く一人ひとりの児童を見守り、学習面・生活面ともに満足できる生活が送れるように全教職員が連携して取り組んでいきます。
5 児童・生徒指導	学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。	保護者の肯定的な意見が昨年より増え、「分からない」という回答は昨年より減っています。保護者に学校での取組が少しずつ認知されたように思われます。しかし、約4割の保護者が肯定的に感じていないので、懇談会やお便りを通しての周知にも更に努めていきます。
6 保健管理	学校は、「健康な子」を育てる指導を積極的に取り組んでいる。	健康に気をつけていると回答した児童が多くいました。これは、手洗いやマスクの着用など感染症予防に対する意識が継続していると考えられます。今後も継続しながら体力づくりの活動や外遊びを充実させ、体力の向上に励んでいきます。また、年3回の「生活リズム大作戦」の取組を継続し、家庭と連携し生活の基盤となる「規則正しい生活習慣」の定着に向けて努めていきます。
7 安全管理、教育環境整備	学校は、児童の安全のための指導や施設の点検・整備に取り組んでいる。	昨年度同様に、教職員は児童に対して積極的に指導をしていることが伺えます。今後も日常の安全指導とともに感染症に気を付けながら避難訓練、交通安全教室、不審者退避訓練など安全教育的な充実を図ります。また、学校の施設点検・整備については今後も定期的に行う安全点検を行うだけでなく、日頃から全教職員が施設の安全について注意を払い、共通理解のもと児童の安全に努めていきます。

8 支援教育	学校は児童に応じた支援の工夫をしている。	肯定的な意見が多いのですが、保護者の願いや児童支援の方法が多様化することで児童一人ひとりに合わせた指導の難しさがあり、「そう思う」と回答する割合が4割であると考えられます。今後も、児童指導委員会、ケース会議等で必要な支援を検討したり、職員会議後で情報交換の時間を設けたりして組織的な支援を引き続きしていきます。また、校内学習支援者やスクールカウンセラー、外部機関との連携を図りながら、随時ケース会議をもつなど児童や保護者の願いに沿った適切な支援が行えるようにしていきます。
9 組織運営	校長を中心とした運営組織になっている。	肯定的な意見が多くあるのは、それぞれの所掌の役割が明確で、業務が進んでいることが読み取れます。学校教育目標の具現化のためカリキュラムマネジメント会議など全教職員で共通理解を図り、学校運営を進めていきます。
10 教職員の研修	学校は、教職員の力量を高めるための取組に力を入れている。	「学び方を身に付けた子」を目指した授業改善では、一人ひとりの発達段階を踏まえ段階的に習得させることを目指しています。また、他学年と情報交換を行ったり、カリキュラムマネジメント会議を行ったりして今後の指導に生かせるようにしてきました。また、ミニ研修では教員が新しい競技を体験し、意見交換するなど授業改善を行っています。今後も校内研究の取組を継続・充実させて授業改善に取り組めます。
11 教育目標・学校評価	学校は、児童の実態を把握し、よりよい児童の成長のための工夫をしている。	教職員、保護者から肯定的な意見が多く見られました。しかし、保護者の「あまり思わない」「思わない」「分からない」という意見も少なくありません。今後も、児童の成長のため様々な指導を学校全体で取り組んでいくとともに、保護者により伝わる方法を考えていこうと思います。そして、地域や保護者からの声を真摯に受け止め、教育活動に反映させていきます。
12 情報提供、保護者・地域住民との連携	学校は、保護者などに適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。	昨年に引き続き保護者の肯定的な意見が9割となっています。今後も家庭や地域に学校の教育目標、重点目標など目指す児童の姿について積極的に発信していく必要があると考えます。学校行事や地域の活動の場で連携を深め、児童がよりよい教育活動を送れるよう、学校と地域と保護者が同じ方向を向けるように連携を図っていきます。
【学校運営協議会からの意見及び改善策】 校内参観について ・理科の学習では進んで児童が学習に取り組んでいた。また、学習支援者が教室に入っていたので細やかな指導ができていた。 ・運営委員が教室に入ると、教室の後ろの方の児童が机と椅子を何も言わずに移動してくれ、思いやりの心が育っていると思った。 学校評価について ・学校教育目標の1つ「最後までがんばる子」の項目がないので検討してほしい。 ・保護者・児童の「あまり思わない」「思わない」をなくすことに今後も努力してほしい。 ・学校での取組がなかなか保護者に伝わっていないことがあるので、伝わる方法を一緒に検討していきたい。 ・キラキラタイム（縦割り活動）で1～6年が一緒に活動する教育はとても良いと思った。 ・コミュニティースクールでは、学校の困り感を共有し、来年度生かしていきたい。		